

Panasonic

デジタルサラウンドプロセッサー

DIGITAL SURROUND PROCESSOR

取扱説明書

品番

CY-AC300D



CAR AUDIO

保証書別添付

この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保存し、必要なときにお読みください。
保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

このたびは、パナソニックカーオーディオ デジタルサラウンドプロセッサ CY-AC300D を
お買い上げいただき、まことにありがとうございました。

本機をご使用の場合には、別売の光ファイバケーブル（CA-LRD30D等）でのDVDナビゲーション
システム（CN-DV2500D等）の接続や別売のRCAコードでのオーディオ機器等の接続が必要です。

特長

DVDビデオソフトと5.1チャンネルサラウンドシステムで、映画館と同じ迫力のあるシアター
サウンドを車内に実現

- 5.1チャンネル（左フロント，右フロント，センター，左サラウンド，右サラウンド，サブウーファー）の
独立した音を再生します。
- ドルビーデジタルサラウンド（ドルビーラボラトリーズ）と DTS（DTS社）の2種類のデジタルサラウンドに対応
します。
- DVDナビゲーションからのデジタル音声入力に，光ファイバケーブル（別売）を採用しました。

ドルビーサラウンド再生やオリジナルDSE効果（音場創生）で，DVD以外のソースもサラウンド
再生が可能

昼・夜で違った顔を演出

- 透過メタリック塗装パネル使用で，昼・夜の表情が変わります。
- ブラックライトをあてると，パネルが光ります。

センタースピーカー専用アンプ内蔵（30W）

付属品

設置・接続の前にご確認ください。

1. 取扱説明書.....	1
2. 取り付け用付属品.....	一式（P.28 参照）
3. 電源コネクタ.....	1
4. 操作ユニット / 本体ユニット接続コード.....	1
5. 保証書.....	1
6. お客様ご相談窓口一覧表.....	1

もくじ

はじめに

安全上のご注意	4
各部のなまえ	
操作ユニット	6
• 前面部	
• ディスプレイ部	
本体ユニット	8
• 前面部	
• 後面部	
操作の前に	
スピーカーを設置する	9
電源を入れる	9
音量を調整する	9
スピーカーの設定・調整について	10
• スピーカー設定表示	
• 信号フォーマット表示	
スピーカーの種類・有無を設定する	11
スピーカーの出力レベルを調整する	12
スピーカーのディレイ時間を合わせる	13

使いかた

デジタルソースを再生する	14
デジタル入力にする	14
ドルビーデジタル	
ドルビーデジタル	14
• 出力モードを切り替える	
• ダイナミックレンジコンプレッション (DR COMP)	
ドルビーサラウンド	16
• 出力モードを切り替える	
DTS (デジタル・シアター・システム)	16
• 出力モードを切り替える	
リニアPCM	17
• 出力モードを切り替える	
• サラウンドで聴く	ドルビーサラウンド再生 / DSE効果 (音場創生)
アナログソースを再生する	18
アナログ入力にする	18
• アナログ入力レベルを調整する	
• サラウンドで聴く	ドルビーサラウンド再生 / DSE効果 (音場創生)
便利な機能	
乗車位置に合わせた音量バランスにする	20
ディスプレイの照明を暗くする	20
一時的に音を消す	21

必要なときに

お手入れのしかた	22	配線のしかた	24
故障についてのお願い	22	取り付けのしかた	28
故障と思われる前に	22	仕様	29
万一、異常動作をした場合	23	アフターサービスについて	30

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

運転者は走行中に操作をしない



禁止

走行中に操作をすると、前方不注意による交通事故の原因になります。
操作は安全な場所に停車して行ってください。

⚠ 注意

取り付け、配線は専門技術者に依頼する



本機の実り付け、配線には専門技術と経験が必要です。安全のため、お買上げの販売店にご依頼ください。

分解や改造はしない



分解禁止

本機を分解したり改造すると、発煙・発火の原因になります。

故障や異常のまま使用しない



禁止

音が出ない、煙が出る、変な匂いがする等の異常な状態で使用すると、発火の原因になります。直ちに使用を中止してお買上げの販売店にご相談ください。

決められたヒューズを使用する



ヒューズ交換は必ず表示された規定のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙・発火の原因になります。

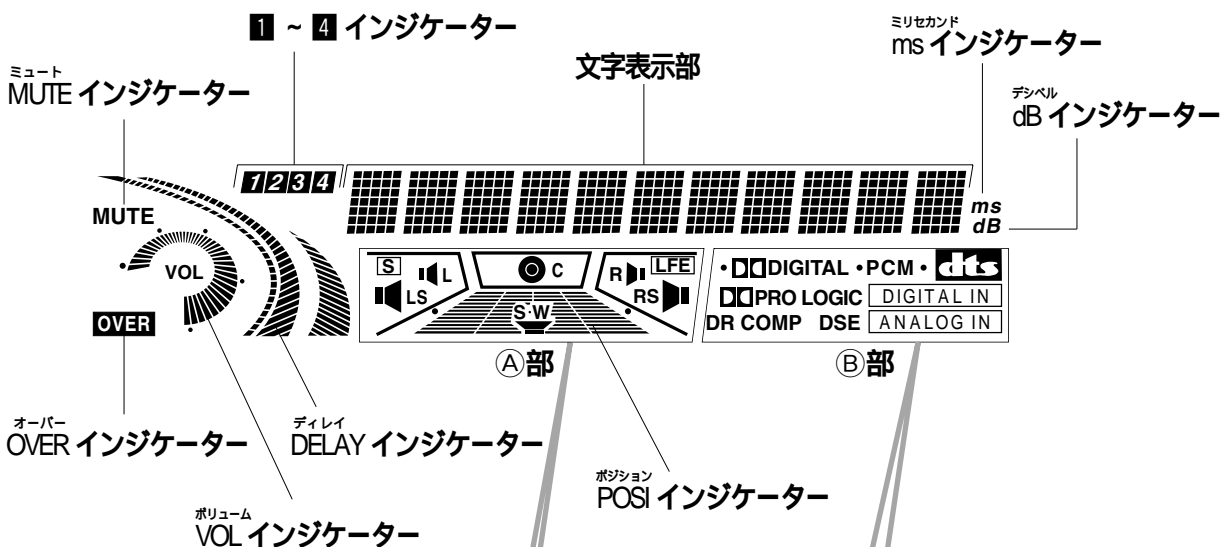
可動部に手・指や異物を入れない



禁止

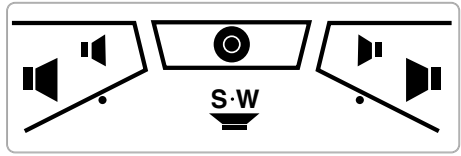
可動部に手・指や異物を入れるとけがや故障の原因になります。

ディスプレイ部

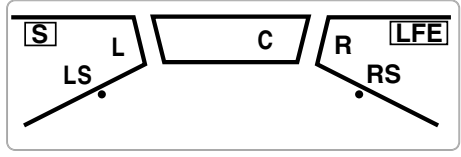


①部詳細

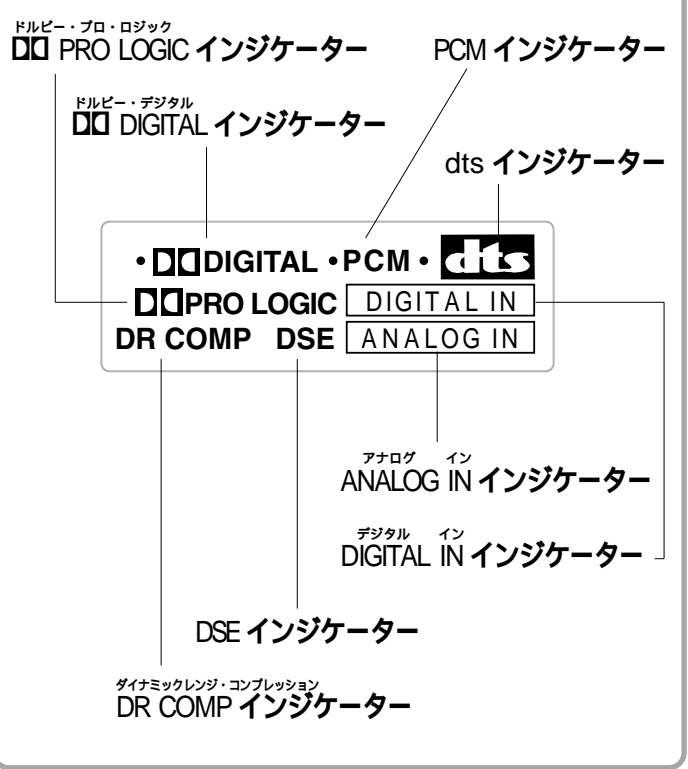
スピーカー設定インジケータ
(表示詳細 P.10 参照)



信号フォーマットインジケータ
(表示詳細 P.10 参照)



②部詳細

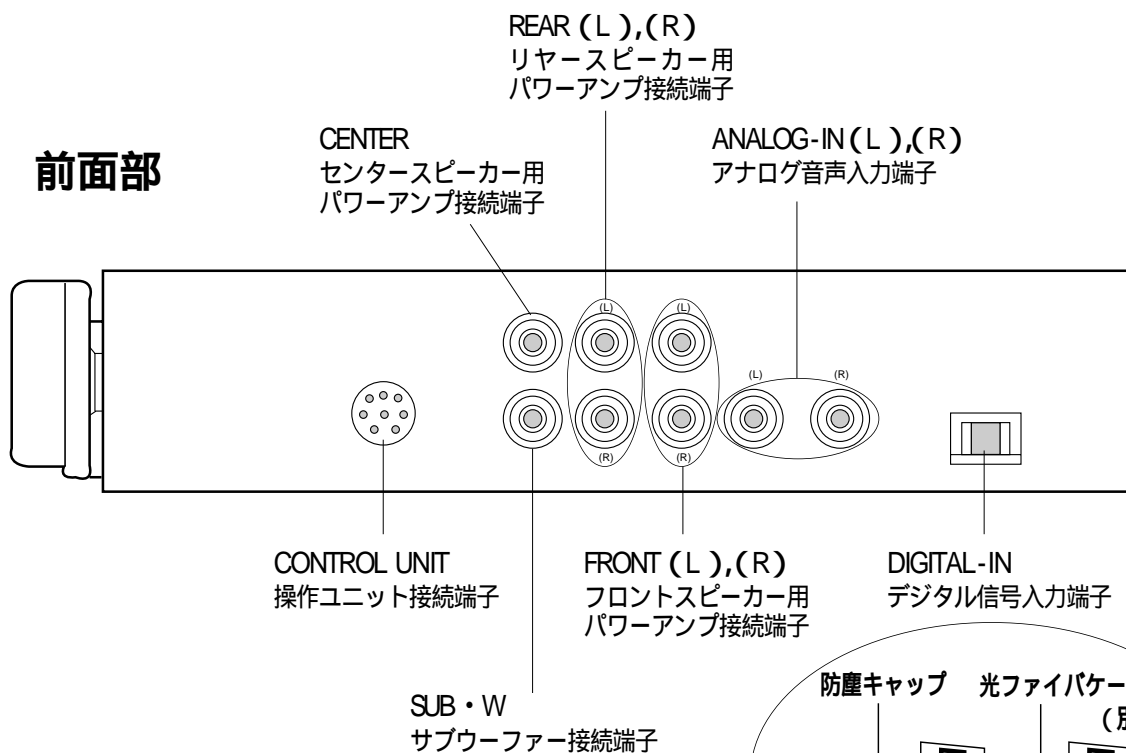


各部のなまえ (つづき)

本体ユニット

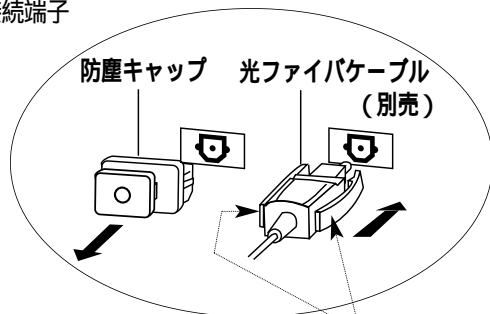
配線のしかたは、P.24 ~ 27 をご参照ください。

はじめに



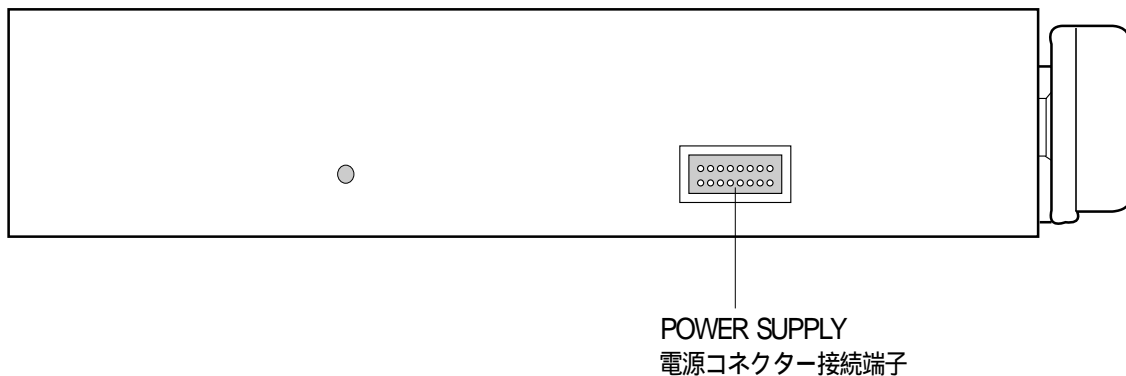
お願い

DIGITAL-INに光ファイバケーブルを接続しないときは、防塵キャップを取り付けておいてください。



はずすときは、コネクター両側面のこの部分を押しながら手前に引いてください。

後面部



操作の前に

スピーカーを設置する

以下の説明をご参考のうえ、スピーカーを設置してご使用ください。

フロントスピーカー

運転席と助手席のドア埋め込み型のスピーカーを使用します。

センタースピーカー

車のセンターコンソール付近、またはモニターの近くに設置します。

サラウンドスピーカー

車後部の左右スピーカーや後部埋め込み型のスピーカーを使用します。

サブウーファー

音の定位が他のスピーカーほど設置する位置に左右されないで、お好みの場所に設置します。

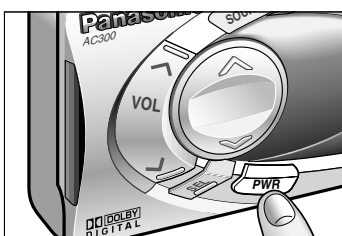
お知らせ

センタースピーカー・サラウンドスピーカー・サブウーファーを設置せずにご使用になる場合には、スピーカー設定をスピーカーシステムに合わせてください。(P.11 参照)

電源を入れる

本機を操作する前に、車のエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。

電源ON / OFF



PWR ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに、電源が“ON/OFF”します。
- ソースを再生する機器の電源も入れてください。

音量を調整する

ボリューム



[初期設定： - 20 dB，調整範囲： - 82 dB ~ 0 dB (1 dB ごと)]

VOL ボタン または VOL ボタンを押す。

VOL ↑ : 音量が上がる。

VOL ↓ : 音量が下がる。

(押し続けると、連続して変化します。)

操作の前に (つづき)

スピーカーの設定・調整について

サラウンドを正確に再現するために、はじめに以下の順序でスピーカーの設定・調整をしてください。

スピーカー設定 (P.11 参照)

使用するスピーカーの種類・有無を設定します。



スピーカー出力レベル (P.12 参照)

各スピーカーへ送る信号の出力レベルを調整します。



スピーカーディレイ時間 (P.13 参照)

各スピーカーへ信号を送るタイミングを調整します。



ソースを再生する (P.14 ~ 19 参照)

再生する機器の電源を入れてから操作してください。

詳細は、接続した機器の取扱説明書をご参照ください。

お知らせ

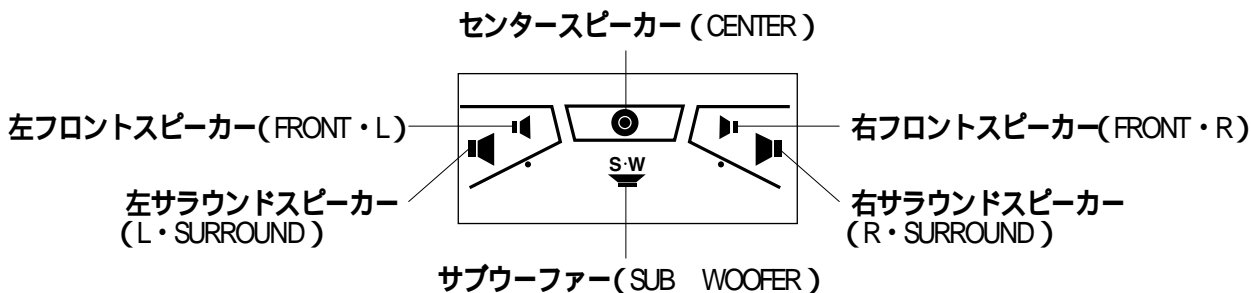
調整や設定は、“COMPLETE”
が表示されている間(約5秒間)
に次の操作をしないと、自動
的に終了します。

(P.11 ~ 13, P.15 参照)

スピーカー設定表示

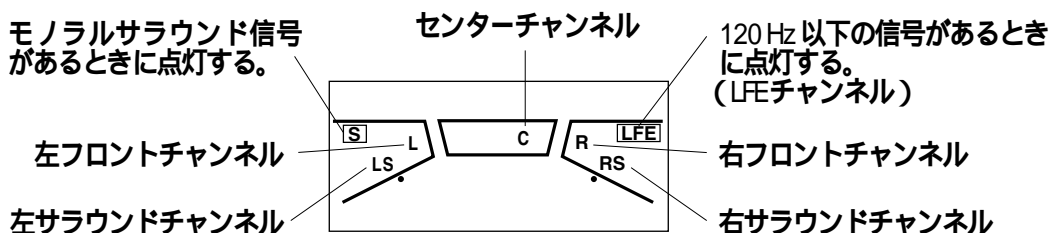
スピーカー設定をするとスピーカーアイコン(絵表示)が点灯し、次のようなときに点滅します。

- スピーカーの有無・種類を設定しているとき。(P.11 参照)
- スピーカーの出力レベルを調整しているとき。(P.12 参照)
- ディレイ時間を設定しているとき。(P.13 参照)



信号フォーマット表示

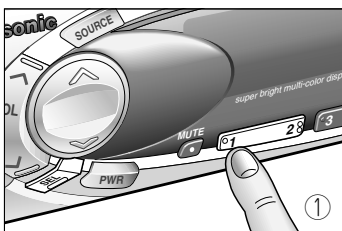
各スピーカーチャンネルに入ってくる、ドルビーデジタルやDTSなどの信号に応じて点灯します。



スピーカーの種類・有無を設定する

スピーカー設定

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、スピーカーの種類・有無を設定します。

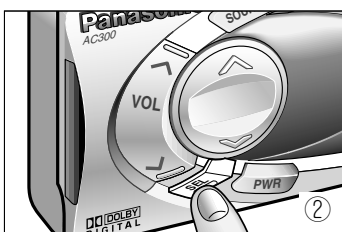


① スピーカー設定に切り替える

SEL ボタンを押して、右のように表示している間に 1 (スピーカー選択) ボタンを押す。

PUSH 1-4

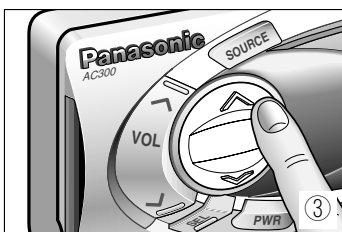
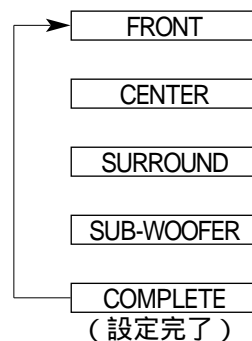
- インジケーターが点滅します。



② 設定するスピーカーを選ぶ

SEL ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに、右のように切り替わります。
- 設定中のスピーカーアイコンが点滅します。



③ スピーカーの種類・有無を設定する

ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに、スピーカーの種類・有無が切り替わります。
(: 逆回り)

(FRONT) **F : LARGE** **F : SMALL**

(CENTER) **C : LARGE** **C : SMALL** **C : NONE**

(SURROUND) **S : LARGE** **S : SMALL** **S : NONE**

(SUB-WOOFER) **SW : YES** **SW : NO**

- LARGE : 大型のスピーカー。低音再生が可能なとき。(100 Hz 以下が目安)
 SMALL : 小型のスピーカー。低音再生が不可能なとき。
 NONE : センタースピーカー/サラウンドスピーカーを使用しないとき。
 YES : サブウーファーを使用するとき。
 NO : サブウーファーを使用しないとき。

お知らせ

“ NONE ” または “ NO ” に設定したスピーカーは、アイコンが点灯しません。

②③を繰り返して、全てのスピーカーの種類・有無を設定してください。

④ 設定を完了する

SEL ボタンを押して、表示を “ COMPLETE ” にする。

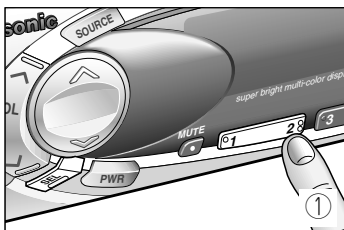
- 完了されると、 インジケーターが消灯します。

操作の前に (つづき)

スピーカーの出力レベルを調整する

スピーカー出力レベル

テスト信号を使って、各スピーカーの音声出力が同じレベルに聞こえるように調整します。テスト信号の音量は、VOL ボタンで調整してください。(P.9 参照)



① スピーカー出力調整に切り替える

SEL ボタンを押して、右のように表示している間に 2 (スピーカー出力調整) ボタンを押す。

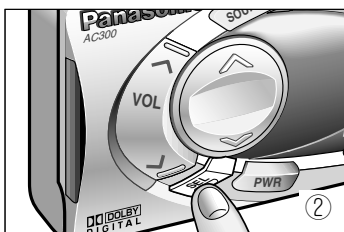
PUSH 1-4

- ② インジケーターが点滅します。
- テスト信号が出力されます。テスト信号は、次の順序で調整が完了するまで出力を繰り返します。(約2秒ずつ)

L C R RS LS SW

お知らせ

スピーカー設定を“NONE”または“NO”にしたスピーカーからは、テスト信号が出力されません。(P.11 参照)



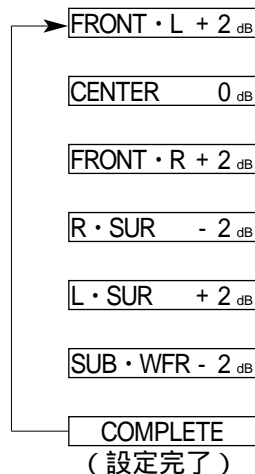
② 調整するスピーカーを選ぶ

SEL ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに右のように切り替わり、現在設定されている出力レベルが表示されます。
- 調整中のスピーカーアイコンが点滅します。

お知らせ

スピーカー設定を“NONE”または“NO”にしたスピーカーには、切り替わりません。(P.11 参照)



③ スピーカーの出力レベルを調整する

[初期設定：0 dB, 調整範囲：-12 dB ~ +12 dB(1 dB ごと)]

ボタンまたは ボタンを押す。

- ： レベルが上がる。
- ： レベルが下がる。

②③を繰り返して、全てのスピーカーの出力レベルを調整してください。

④ 設定を完了する

SEL ボタンを押して、表示を“COMPLETE”にする。

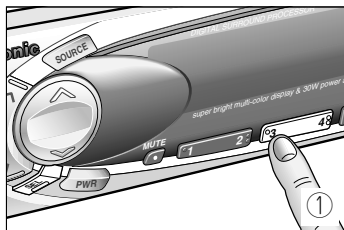
- 完了されると、② インジケーターが消灯します。

スピーカーのディレイ時間を合わせる

スピーカーディレイ時間

ディレイ時間は、ドルビーデジタル/ドルビーサラウンドの機能です。

車の大きさやスピーカーの取り付け位置によって、各スピーカーから視聴位置に音が届くタイミングが異なります。ドルビーデジタルの立体的なサウンドを正確に再現するために、各スピーカーの出力に時間差（ディレイ時間）を与え、フロントスピーカーの出力と同じタイミングに聴こえるように補正します。



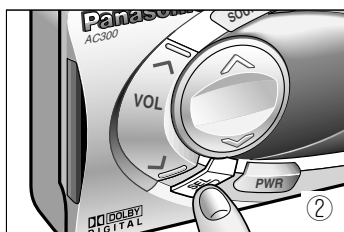
① スピーカーディレイ時間調整に切り替える

SEL ボタンを押して、右のように表示している間に、

PUSH 1-4

3 (ディレイ時間調整) ボタンを押す。

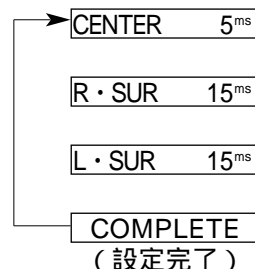
- 3 インジケーターが点滅します。



② 調整するスピーカーを選ぶ

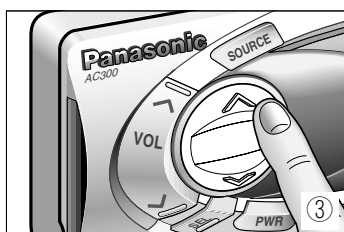
SEL ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに右のように切り替わり、現在設定されているディレイ時間が表示されます。
- 設定中のスピーカーアイコンが点滅します。



お知らせ

スピーカー設定を“NONE”にしたスピーカーには、切り替わりません。また、スピーカー設定が全て“NONE”になっている場合は、スピーカーディレイ時間が調整できません。(P.11 参照)



③ スピーカーのディレイ時間を調整する

初期設定：0 ms 1 ms = 0.001 秒

調整範囲：センタースピーカー 0 ms ~ 5 ms (1 msごと)
サラウンドスピーカー 0 ms ~ 15 ms (1 msごと)

ボタンまたは ボタンを押す。

- ： ディレイ時間が長くなる。
- ： ディレイ時間が短くなる。

②③を繰り返して、全てのスピーカーのディレイ時間を調整してください。

④ 設定を完了する

SEL ボタンを押して、表示を“COMPLETE”にする。

- 完了されると、3 インジケーターが消灯します。

お知らせ

ドルビーサラウンドのときは、自動的にサラウンドスピーカーのディレイ時間の設定に 15 ms が加算されます。

デジタルソースを再生する

別売の光ファイバケーブル (CA-LRD30D等) で接続したDVDナビゲーション (CN-DV2500D等) の電源を入れて、デジタルソースを再生してください。

デジタル入力にする

デジタル入力にすると再生したソースの音声記録方式 (フォーマット) が自動的に判断され、インジケータが点灯します。



SOURCE ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに、デジタル入力とアナログ入力が切り替わります。
- デジタル入力のときは、DIGITAL IN インジケータが点灯します。

フォーマットインジケータ



お知らせ

- 再生するソースのフォーマットが認識される少しの間、音が途切れることがあります。
- フォーマットインジケータが全て消灯している場合は、デジタル信号がないときです。このときは P.14 ~ P.17 のどの操作をしても音声が出力されませんので、アナログ入力に切り替えて操作してください。(P.18 参照)

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルフォーマット



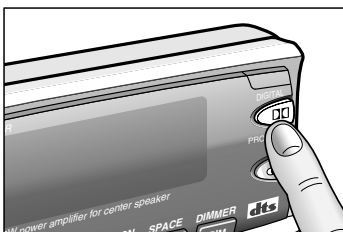
DIGITAL インジケータが点灯します。

音楽信号を左フロント (L)、右フロント (R)、センター (C)、左サラウンド (LS)、右サラウンド (RS)、サブウーファー (SW: 0.1チャンネル) の5.1チャンネルに分解して記録・再生する完全ディスクリット (分割) 方式です。

ドルビーデジタルの信号フォーマットについて

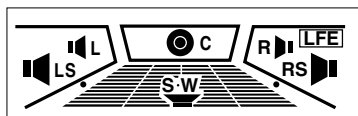
ドルビーデジタルは1チャンネル ~ 5.1チャンネルの信号フォーマットで記録されており、全てのソースが5.1チャンネルで記録されているとは限りません。信号フォーマットインジケータで、そのフォーマットを表示します。

出力モードを切り替える

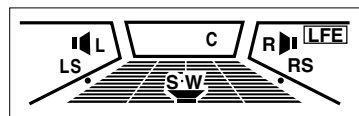


DIGITAL / PRO LOGIC ボタンを押す。

- ボタンを押すごとにモードが切り替わります。



記録されている信号フォーマット
例) 5.1チャンネルサラウンド再生



ダウンミックス

(2チャンネルステレオ再生)

C, LS, RS の信号を L と R に合成して出力します。

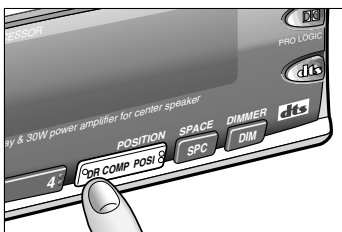
お知らせ

ダウンミックスのときはセンタースピーカー・サラウンドスピーカーから音が出なくなり、全体の音量が多少変わります。

ダイナミックレンジコンプレッション (DR COMP)

DR COMP が設定されているドルビーデジタル方式のソフトだけに有効な機能です。

DR COMP は、ドルビーデジタルのダイナミックレンジ (再生レベルの範囲) を圧縮する機能です。音場の広がり感を維持したままピークレベルを抑えることができるので、大音量を控えたいときにご使用ください。



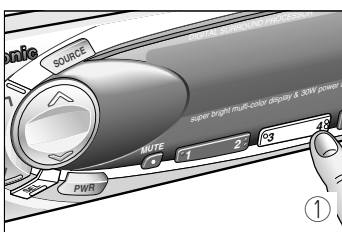
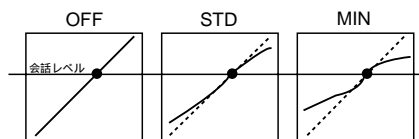
DR COMP ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに、次のように切り替わります。[初期設定：OFF]
- DR COMP OFF : 映画館そのままのダイナミックレンジ最大のモード。(圧縮していないダイナミックレンジ)
- DR COMP STD : ソフトの製作者が小音量での視聴用として推奨するモード。圧縮率の調整ができます。
- DR COMP MIN : ダイナミックレンジを最も圧縮したモード (テレビ放送などに近いダイナミックレンジ)

● 設定が “STD” “MIN” のときは、DR COMP インジケータが点灯します。

DR COMP を調整する

設定が “STD” のときの、ダイナミックレンジの圧縮率が調整できます。

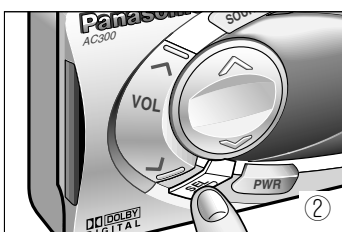


① DR COMP 調整に切り替える

SEL ボタンを押して、右のように表示している間に 4 (DR COMP 調整) ボタンを押す。

PUSH 1-4

● 4 インジケータと DR COMP インジケータが点滅します。

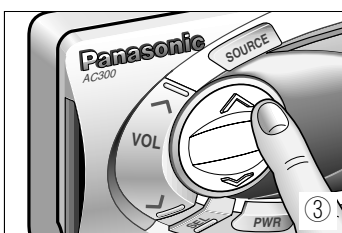


② ハイレベルカットとローレベルブーストを選ぶ

SEL ボタンを押す。

● ボタンを押すごとに、右のように切り替わります。

- H CUT 1.0
- L BOOST 1.0
- COMPLETE (設定完了)

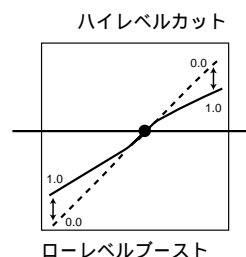


③ ダイナミックレンジの圧縮率を調整する

[初期設定：1.0 ソフト製作者の推奨レベル]
調整範囲：0.0 ~ 1.0 (0.1 ずつ)

ボタンまたは ボタンを押す。

- : 圧縮率が上がる。
- : 圧縮率が下がる。



②③を繰り返して、ハイレベルカットとローレベルブーストの圧縮率を調整してください。

④ 設定を完了する

SEL ボタンを押して、表示を “COMPLETE” にする。

● 完了されると、4 インジケータが消灯します。

デジタルソースを再生する (つづき)

ドルビーデジタル (つづき)

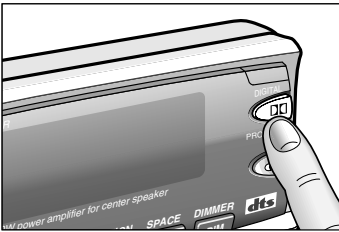
ドルビーサラウンドフォーマット



□□ DIGITALインジケータ と □□ PRO LOGIC インジケータが点灯します。

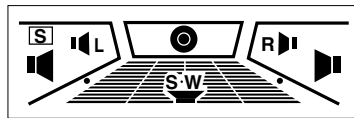
左フロント (L), 右フロント (R), センター (C), モノラルサラウンド (S) の4チャンネル信号を2チャンネルで記録し, それをドルビープロロジックデコーダーで解析して再度4チャンネルに出力する方式です。サラウンドチャンネルの出力は, モノラルです。

出力モードを切り替える

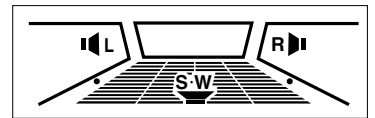


□□ DIGITAL / □□ PRO LOGIC ボタン を押す。

- ボタンを押すごとにモードが切り替わります。



ドルビーサラウンド



2チャンネルステレオ

DTS (デジタル・シアター・システム)

DTSフォーマット

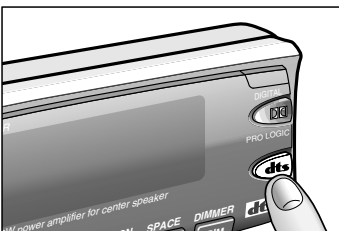


dts インジケータが点灯します。

ドルビーデジタルを上回るデータ量で, より高品質のサラウンド再生ができる最新方式です。

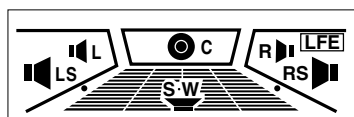
ドルビーデジタルと同様に, 音楽信号を左フロント (L), 右フロント (R), センター (C), 左サラウンド (LS), 右サラウンド (RS), サブウーファー (SW: 0.1チャンネル) の5.1チャンネルに分解して記録・再生する完全ディスクリット (分割) 方式です。

出力モードを切り替える

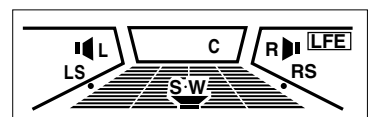


dts ボタンを押す。

- ボタンを押すごとにモードが切り替わります。



5.1チャンネルサラウンド



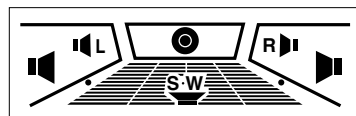
2チャンネルステレオ

リニアPCM

リニアPCMフォーマット

PCM インジケータが点灯します。

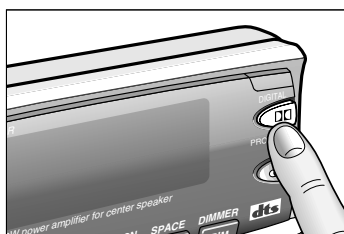
リニアPCMは、音楽CDなどに使われている信号記録方式です。



リニアPCM

サラウンドで聴く

2チャンネルの信号をサラウンドで聴くことができます。ドルビーサラウンド再生 または DSE効果（音場創生）のどちらかでお楽しみください。



PRO LOGIC / **DIGITAL** ボタンを押す。

- ボタンを押すごとにモードが切り替わります。

SURROUND : ドルビーサラウンド再生

現在のDSE効果 : DSE効果（音場創生）

ドルビーサラウンド再生

PCM インジケータと **PRO LOGIC** インジケータが点灯します。

2チャンネルの信号をサラウンド処理して出力するので、普通の音楽CDでもサラウンドで聴くことができます。リニアPCMのときは、モノラルサラウンド (S) インジケータは点灯しません。

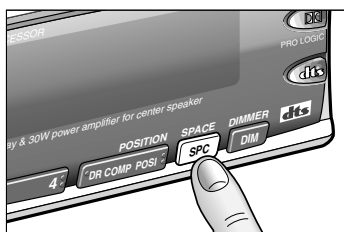
お知らせ

スピーカー設定で、サラウンドスピーカーを“NONE”にしているときは、ドルビーサラウンドに切り替わりません。(P.11 参照)

DSE効果（音場創生）

PCM インジケータと DSE インジケータが点灯します。(DSE効果の設定が“DSE 1 ~ DSE 3”のとき)

2チャンネルの信号にデジタル処理した反射音を付加することによって、特定の場所（コンサートホールなど）にいるようなリアリティのある音場（SPACE）を車室内に創り出します。



SPC ボタンを押す。

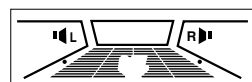
- ボタンを押すごとに、音場が次のように切り替わります。

[初期設定：STEREO 4 SP]

STEREO 4 SP	4チャンネルの出力
DSE 1	ライブハウスのような音場
DSE 2	コンサートホールのような音場
DSE 3	スタジアムのような音場
STEREO 2 SP	2チャンネルの出力

お知らせ

- DSE効果の設定が“STEREO 2 SP”のときは、右のように点灯します。
- DSE効果の設定が“STEREO 4 SP”のときは、サブウーファーからも出力されます。(スピーカー設定が“YES”になっているとき P.11 参照)



使
い
か
た

アナログソースを再生する

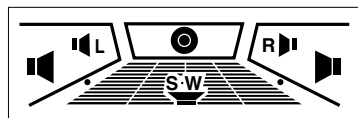
別売のRCAコードで接続した機器の電源を入れて、アナログソースを再生してください。

アナログ入力にする



SOURCE ボタン を押す。

- ボタンを押すごとに、デジタル入力とアナログ入力が切り替わります。
- アナログ入力の場合は、**ANALOG IN** インジケータが点灯します。



アナログ入力

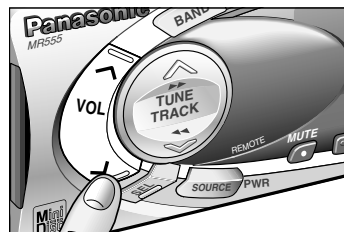
アナログ入力レベルを調整する

OVERインジケータが点灯しているときはアナログ信号の入力レベルが過大なので、調整をしてください。

OVERインジケータが消灯するように、アナログ音声出力側の機器で音量を調整する。

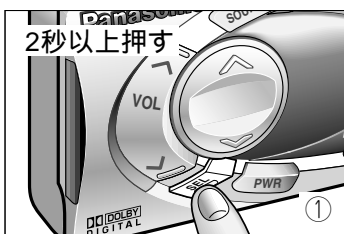
例) CQ-MR555D

詳細は、接続した機器の取扱説明書をご参照ください。



アナログ音声出力側の機器
例) CQ-MR555D

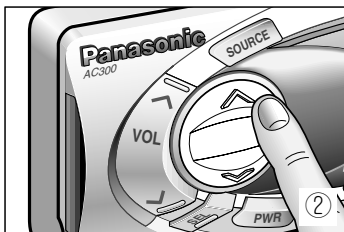
【アナログ音声出力側の機器で、音量が調整できない場合】



2秒以上押す

① アナログ入力レベル調整に切り替える

SEL ボタン を2秒以上押す。



② 入力レベルを調整する

[初期設定 : 0 dB , 調整範囲 : - 6 dB ~ + 3 dB (3 dB ごと)]

ボタン または ボタン を押す。

- ： レベルが上がる。
- ： レベルが下がる。

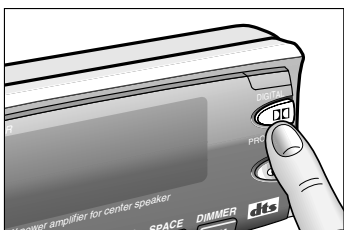
アナログ入力レベル調整後は、本機の VOL ボタン で音量を調整してください。(P.9 参照)

お知らせ

OVER インジケータが点灯しているときは、正常なデジタル処理ができないため音声が出力されません。

サラウンドで聴く

2チャンネルの信号をサラウンドで聴くことができます。ドルビーサラウンド再生 または DSE効果（音場創生）のどちらかでお楽しみください。



DIGITAL / PRO LOGIC ボタンを押す。

- ボタンを押すごとにモードが切り替わります。

SURROUND : ドルビーサラウンド再生

(現在のDSE効果) : DSE効果（音場創生）

ドルビーサラウンド再生

PRO LOGIC インジケーターが点灯します。

2チャンネルの信号をサラウンド処理して出力するので、普通の音楽CDでもサラウンドで聴くことができます。アナログソースのときは、モノラルサラウンド(S) インジケーターは点灯しません。

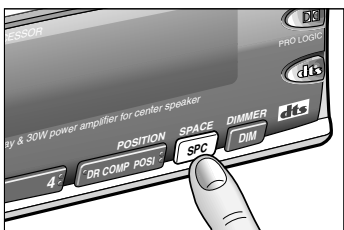
お知らせ

スピーカー設定で、サラウンドスピーカーを“NONE”にしているときは、ドルビーサラウンドに切り替わりません。(P.11 参照)

DSE効果（音場創生）

DSE インジケーターが点灯します。 (DSE効果の設定が“DSE 1 ~ DSE 3”のとき)

2チャンネルの信号にデジタル処理した反射音を付加することによって、特定の場所（コンサートホールなど）にいるようなリアリティのある音場（SPACE）を車室内に創り出します。



SPC ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに、音場が次のように切り替わります。

[初期設定 : STEREO 4 SP]

STEREO 4 SP	4チャンネルの出力
DSE 1	ライブハウスのような音場
DSE 2	コンサートホールのような音場
DSE 3	スタジアムのような音場
STEREO 2 SP	2チャンネルの出力

お知らせ

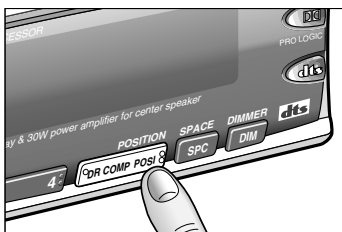
- DSE効果の設定が“STEREO 2 SP”のときは、右のように点灯します。
- DSE効果の設定が“STEREO 4 SP”のときは、サブウーファーからも出力されます。(スピーカー設定が“YES”になっているとき P.11 参照)



便利な機能

乗車位置に合わせた音量バランスにする

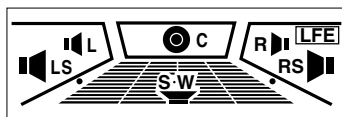
ポジション



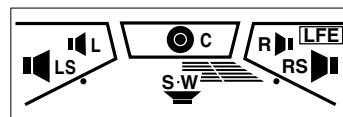
音像を乗車位置や人数に合わせた位置に調整することができます。

POSITION ボタンを押す。

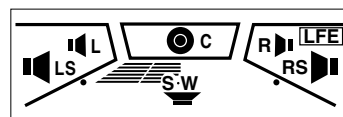
- ボタンを押すごとに、ポジションが次のように切り替わり、POSITION インジケーターが点灯します。 [初期設定：全席]



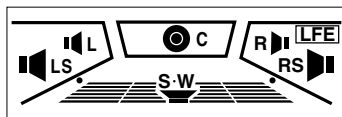
全席



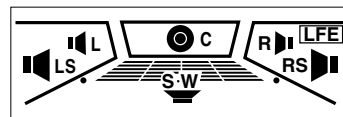
前席右



前席左



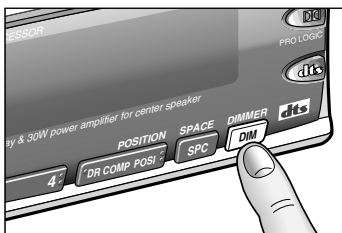
後席



前席

ディスプレイの照明を暗くする

ディマー



ディスプレイの明るさを切り替えることができます。

DIMMER ボタンを押す。

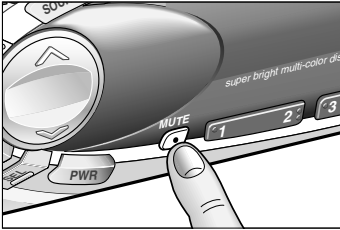
- ボタンを押すごとに、ディマーが“ON/OFF”します。 [初期設定：OFF]

DIMMER OFF：照明が明るくなる。

DIMMER ON：照明が暗くなる。

一時的に音を消す

ミュート



一時的に消音することができます。

MUTE ボタンを押す。

- ボタンを押すごとに、ミュートが “ON/OFF” します。[初期設定：OFF]

MUTE OFF : 通常の音量。

MUTE ON : 消音する。(音が出なくなる)

- ミュートが “ON” のときは “MUTE ON” と表示され、MUTEインジケータ-が点灯します。

お手入れのしかた

本機の清掃について

- 乾いた柔らかい布で拭いてください。ベンジン、シンナー類を使うと、ケースや塗装が変質しますので、避けてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。



禁止



お願い

本機内に水が入ると故障の原因になりますので、洗車や雨のときに水がかからないようにご注意ください。

故障についてのお願い

万一異常(ヒューズの溶断など)が起りましたら、必ずお買い上げの販売店またはお近くの「お客様ご相談窓口」(別紙参照)に修理をご依頼ください。ご自身でヒューズの取り替えや修理をされますと、思わぬことで故障の範囲を大きくすることがありますので、特にご注意ください。

⚠ 注意

故障や異常のまま使用しない



禁止

音が出ない、煙が出る、変な匂いがする等の異常な状態で使用すると発火の原因になります。直ちに使用を中止してお買い上げの販売店にご相談ください。

分解や改造はしない



分解禁止

本機を分解したり改造すると、発煙・発火の原因になります。

故障と思われる前に

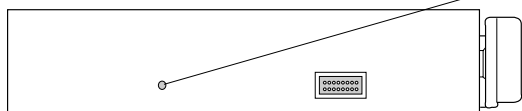
症状	原因	処置	参照ページ
電源が入らない。	車のエンジンスイッチが入っていない。	車のエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。	9
	各コードが正しく接続されていない。	各コードを正しく接続してください。	24～27
	バッテリー電源コードが正しく接続されていない。	バッテリー電源コードを、常時通電している端子に接続してください。	24～27
	アクセサリ電源コードが正しく接続されていない。	アクセサリ電源コードを、車のACC電源へ接続してください。	24～27
	アースコードが正しく接続されていない。	アースコードを、車体の金属部へ接続してください。	24～27
	ヒューズが切れている。	お買い上げの販売店またはお近くの「お客様ご相談窓口」(別紙参照)にヒューズの交換をご依頼ください。	22

故障と思われる前に

症 状	原 因	処 置	参照ページ
音が出ない。	車のエンジンスイッチが入っていない。	車のエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。	9
	電源が“ON”になっていない。	PWR ボタンを押して、電源を“ON”にしてから調整してください。	9
	音量が下がっている。	音量を上げてください。	9
	各コードが正しく接続されていない。	各コードを正しく接続してください。	24 ~ 27
	スピーカーコードが正しく接続されていない。	スピーカーコードを正しく接続してください。	24 ~ 27
	別売の光ファイバケーブルが正しく接続されていない。	別売の光ファイバケーブルを正しく接続してください。	24 ~ 27
	デジタル信号がない。 (デジタル入力するとき、フォーマットインジケータが全て消灯している。)	アナログ入力に切り替えて操作してください。	14
	アナログ信号の入力レベルが過大である。 (OVERインジケータが点灯している)	アナログ入力レベルを調整してください。	18
	ミュートが“ON”になっている。	ミュートを“OFF”してください。	21
	結露している。	しばらく放置してからご使用ください。	
何れかのスピーカーから音が出ない。	スピーカー設定が“NONE”や“NO”になっている。	スピーカー設定を正しく行ってください。	11
DR COMP がはたらかない。 (操作しても“DR COMP”表示が出ない)	再生ソースがドルビーデジタルでない。	DR COMP が設定されているドルビーデジタル方式のソフトだけに有効な機能です。	15
左右の音が逆になる。	スピーカーコードの接続が逆になっている。	スピーカーコードを正しく接続してください。	24 ~ 27

万一、異常動作をした場合

本体ユニット(後面)



リセットスイッチ

この穴に折れない細い棒などを入れてスイッチを押すと、異常回復後、初期の状態に戻ります。このときメモリーした内容は解除されますので、ご注意ください。

お願い

どの操作ボタンを押しても動作しない場合に押してください。それでも正常に戻らない場合は、お買い上げの販売店またはお近くの「お客様ご相談窓口」に修理依頼をしてください。

配線のしかた

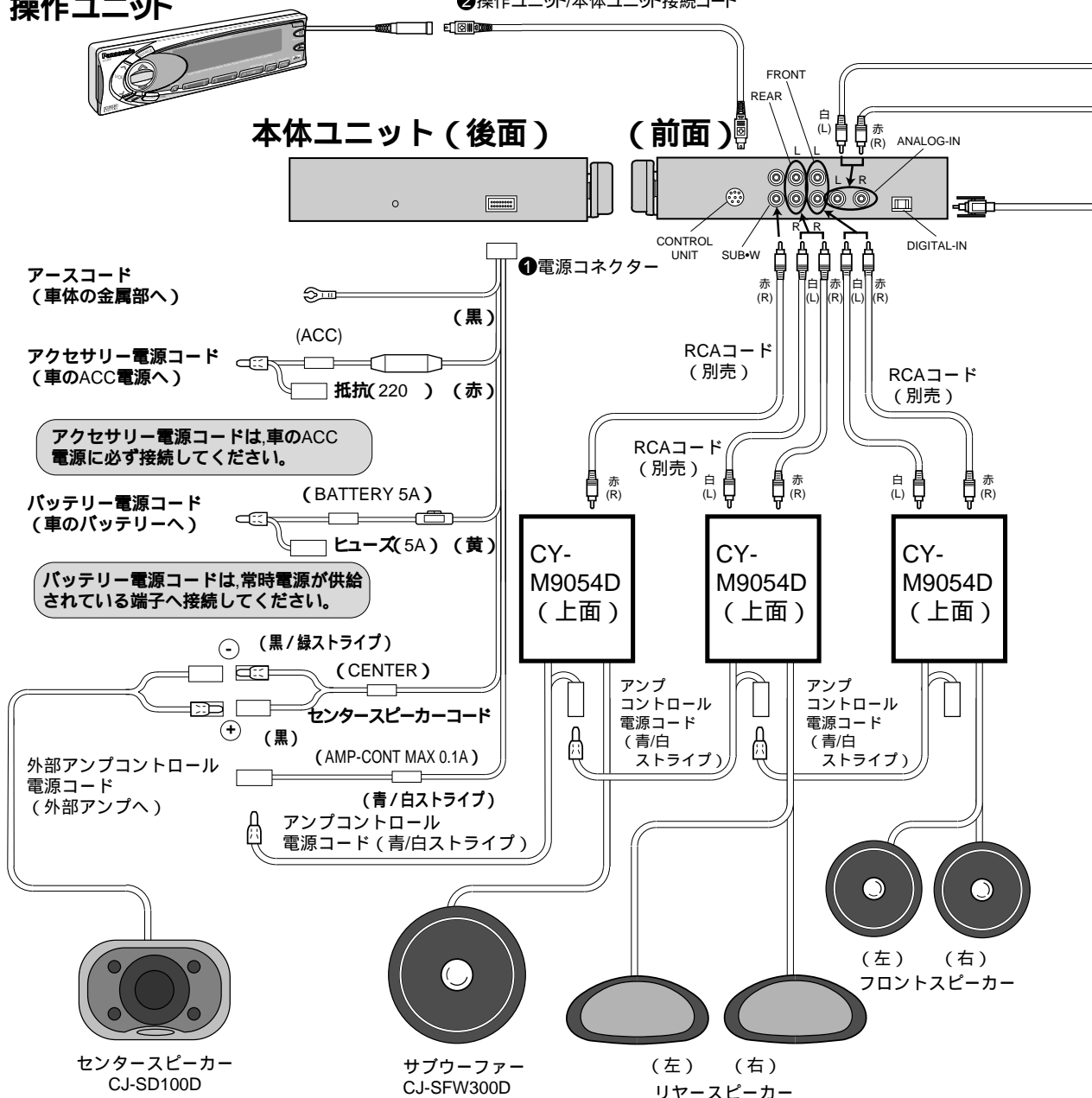
配線の前に

- 本機はDC12V⊖アース車専用です。
- 配線作業中のショート事故防止のため、バッテリーのマイナス端子をはずしておいてください。
- 配線については、各機器の取扱説明書をよくお読みください。
- スピーカーは各種とりそろえておりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

ドライブコンピューターやナビゲーションコンピューターが取り付けられている車では、バッテリーの端子をはずすとこれらのコンピューターのメモリーが消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

本機CY-AC300D 操作ユニット

②操作ユニット/本体ユニット接続コード



必要なときに

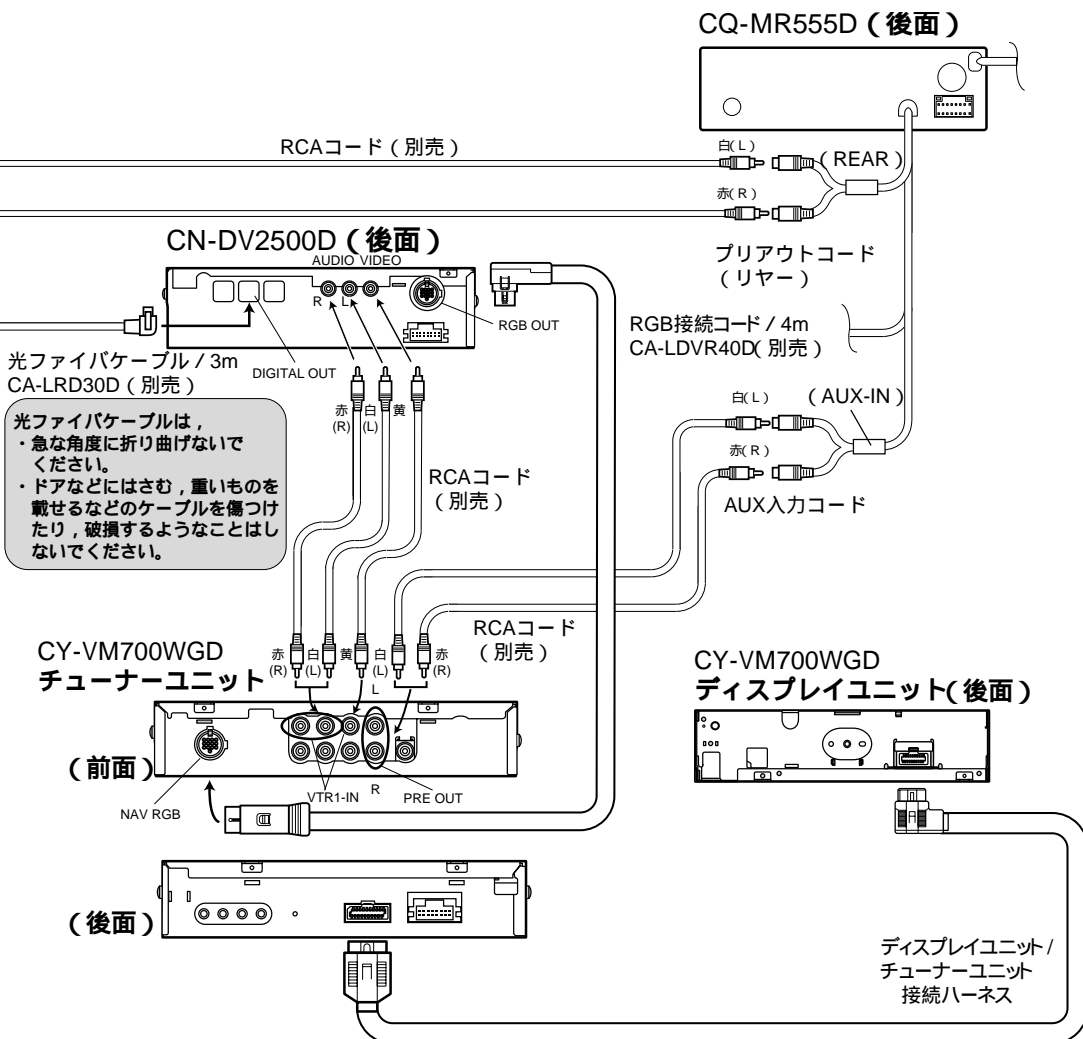
システムアップ1：外部アンプを使った6スピーカーシステム

組み合わせ例

- DVDナビゲーションシステム (CN-DV2500D)
- 7型ワイドインダッシュTV (CY-VM700WGD)
- MDレシーバー (CQ-MR555D)
- パワーアンプ (CY-M9054D) 他

使用する付属品

	品名	数量
①	電源コネクター	1
②	操作ユニット/本体ユニット接続コード	1



⚠ 注意

**取り付け、配線は専門技術者に
依頼する**



本機の実取り付け、配線には専門技術と経験が必要です。安全のため、お買い上げの販売店に依頼してください。

決められたヒューズを使用する



ヒューズ交換は必ず表示された規定のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙・発火の原因になります。

必要なときに

配線のしかた (つづき)

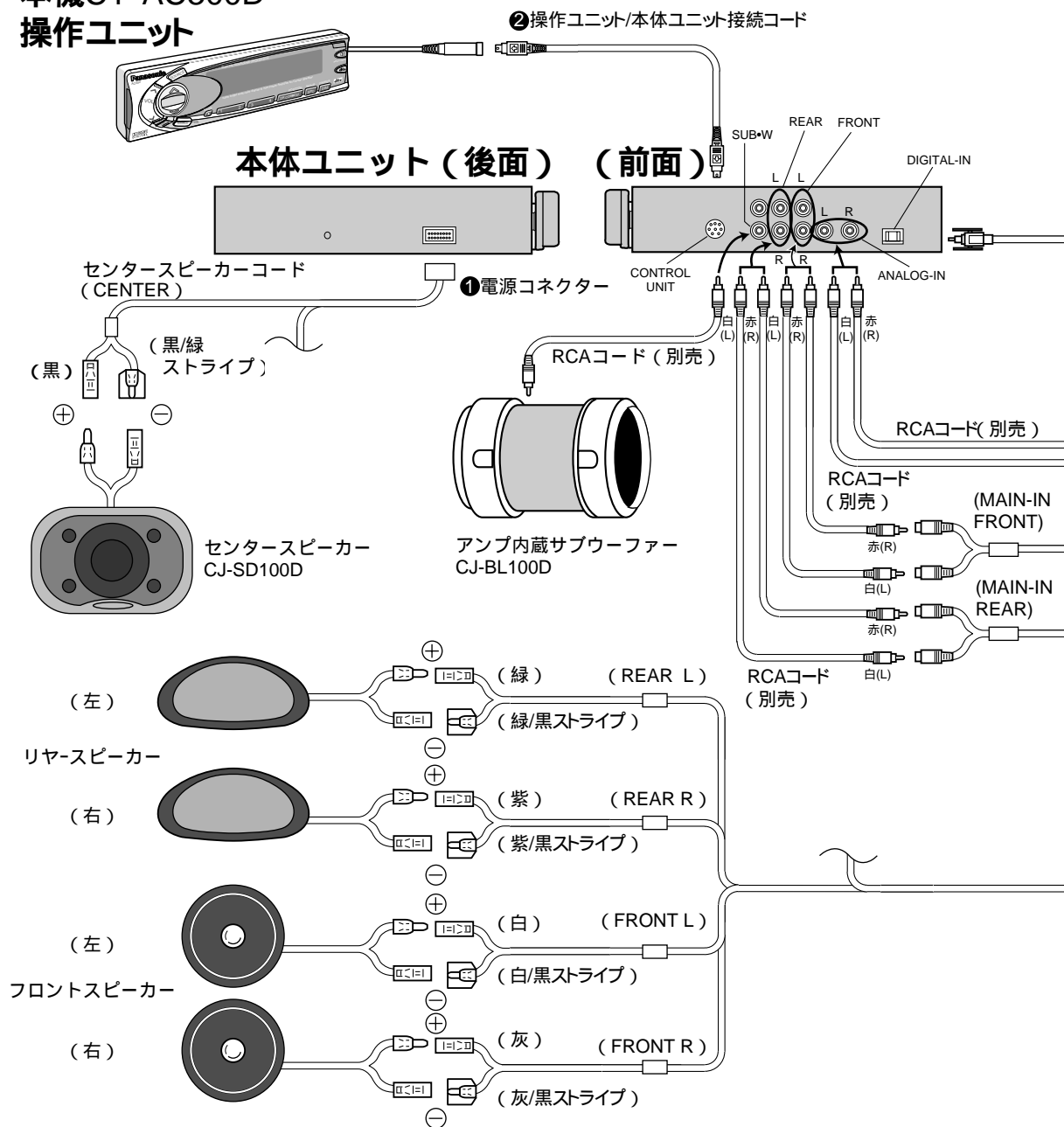
システムアップ2：インダッシュAVの内蔵アンプを使った6スピーカーシステム

組み合わせ例

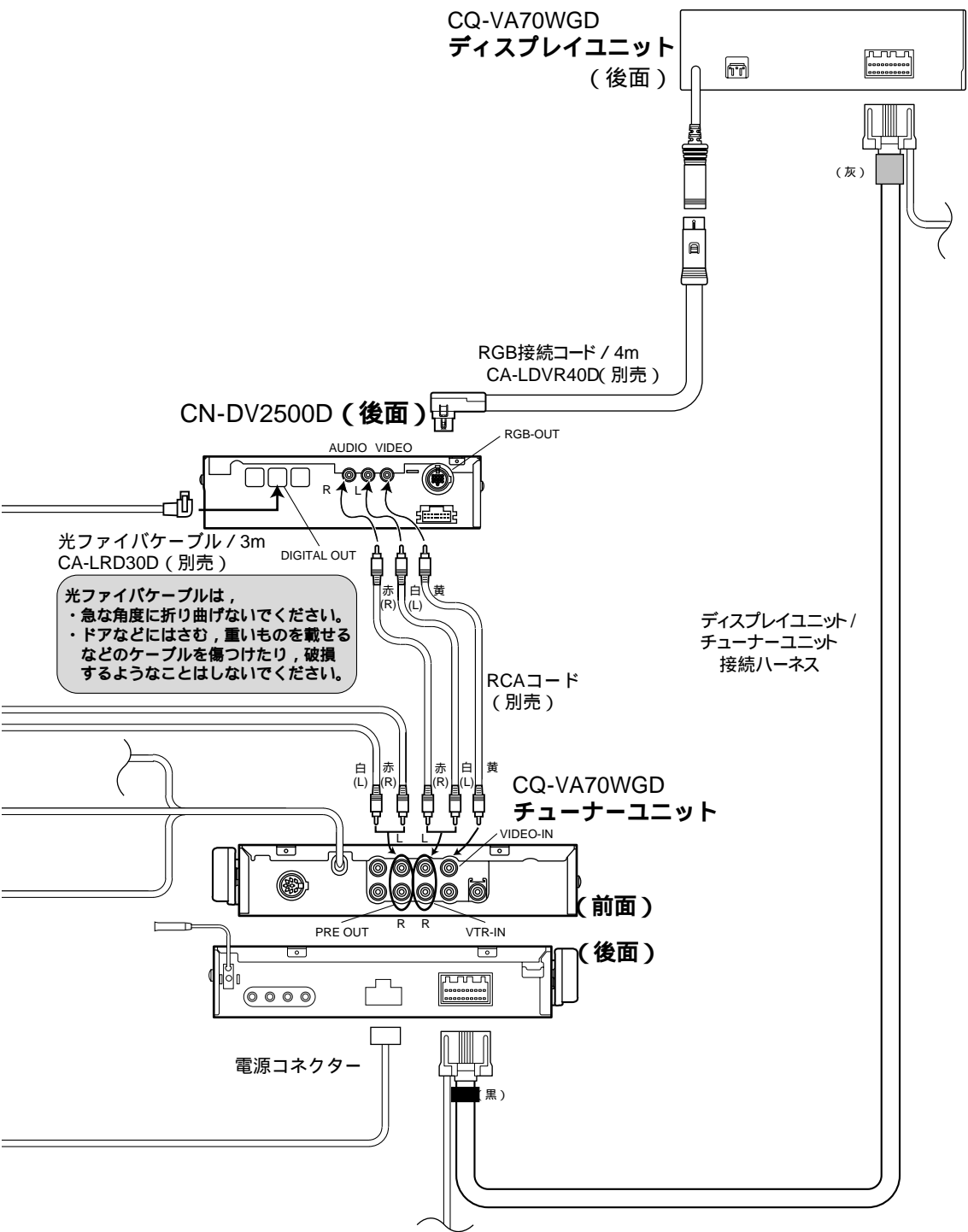
- DVDナビゲーションシステム (CN-DV2500D)
- 7型ワイドインダッシュAV (CQ-VA70WGD)
- アンプ内蔵サブウーファー (CJ-BL100D) 他

本機CY-AC300D

操作ユニット



必要なときに



必要なときに

取り付けのしかた

- 本機はDC12V⊖アース車専用です。
- 取り付けには、車両で使用されているブラケットをご使用ください。

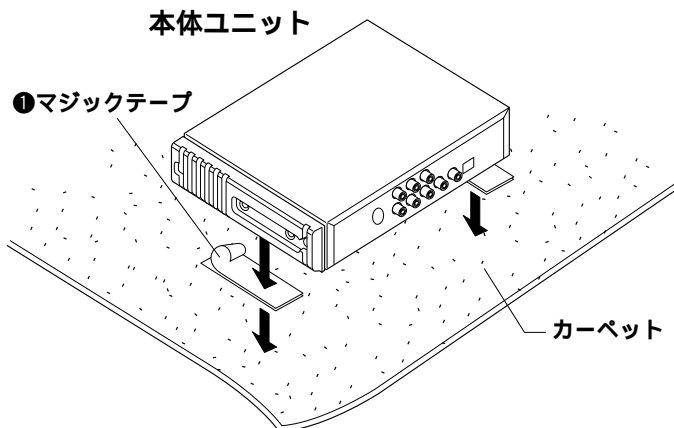
取り付け用付属品

添付の袋には、右表の取り付け用部品が入っております。ご確認ください。

番号	品名	数量
①	本体ユニット取り付け用 マジックテープ (16 mm × 97 mm)	2組
②	操作ユニット取り付け用 マジックテープ (16 mm × 30 mm)	2組

本体ユニットの取り付け

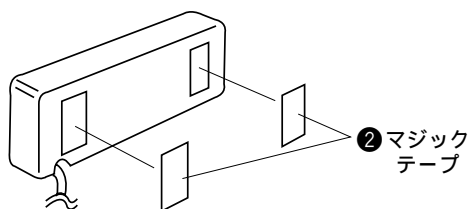
本体ユニットにマジックテープを貼り付けて、車両のカーペットの上に取り付けます。



操作ユニットの取り付け

操作ユニットの後面にマジックテープを貼り付けて、お好みの場所に固定します。

操作ユニット（後面）



お願い

- 車の運転に支障のない場所を選んで、取り付けてください。
- 本機を連続して使用すると、本体ユニットの放熱器や上部が熱くなります。動作中には手などを触れないよう、また上部に物などを置かないようにしてください。
- ヒーターの吹き出し口の近く、およびダッシュボードやリヤートレイの上のように直射日光の当たる場所など、高温により故障するおそれがある場所には取り付けないでください。
- ドアの近くなど、雨水がかかりやすい場所には取り付けないでください。
- マジックテープの貼付面は、油・水・ほこり等を必ず取り除いてください。

お知らせ

車両のカーペットの種類によっては、取り付けのできない場合があります。

⚠ 注意



取り付け、配線は専門技術者に依頼する

本機の取り付け、配線には専門技術と経験が必要です。安全のため、お買い上げの販売店に依頼してください。

仕様

共通

電源電圧	:	DC 12 V (11 V - 16 V) 試験電圧 14.4 V , ⊖アース
消費電流	:	3.0 A 以下
外形寸法	● 操作ユニット	: 幅 170 × 高さ 46 × 奥行き 25 (mm)
	● 本体ユニット	: 幅 214 × 高さ 41 × 奥行き 150 (mm)
質量	● 操作ユニット	: 0.2 kg
	● 本体ユニット	: 1.1 kg

オーディオ

出力電圧 / インピーダンス	:	2 Vrms (0 dB) (EIAJ) / 600
周波数特性	フロント L/R , センター , サラウンド L/R (LARGE 選択時)	: 20 Hz ~ 20 kHz ± 1 dB
ディレイ時間	ドルビーデジタル ● センター	: 0 ~ 15 ms
	● サラウンド L/R	: 0 ~ 15 ms
	ドルビープロロジック ● サラウンド L/R	: 15 ~ 30 ms
ひずみ率	フロント L/R (1 kHz , 0 dB , PCM 入力)	: 0.02 %
ダイナミックレンジ		: 96 dB (EIAJ)
SN比		: 100 dB (EIAJ)

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「DOLBY」,「PRO LOGIC」およびダブルD記号 **DD** はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権 1992年 1997年 ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

本機は、米国 DTS社 からのライセンスに基づき製造されています。

製品仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

アフターサービスについて

保証書（別に添付してあります。）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと大切に保存してください。

保証期間 - お買い上げ日から 1 年間

修理を依頼される時

“故障と思われる前に”の項に従って調べていただき、直らない場合には必ず電源を切ってから、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが製品に保証書を添えてご持参ください。

お買い上げの販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「お客様ご相談窓口」（別紙参照）にご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店へご依頼ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理をさせていただきます。販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「お客様ご相談窓口」（別紙参照）にご連絡ください。

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）は、製造打ち切り後、最低 6 年間保有しております。

アフターサービスなどについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または、お近くの「お客様ご相談窓口」（別紙参照）にお問い合わせください。

便利メモ（おぼえのため，記入されると便利です）

お買い上げ日	年 月 日	品番	CY-AC300D
販 売 店 名	☎ () -		
お客様ご相談窓口	☎ () -		

松下電器産業株式会社
松下通信工業株式会社 カーシステム事業部

〒224 - 8539 横浜市都筑区佐江戸町600番地

お客様相談室 フリーダイヤル 0120 - 508 - 729
(土・日・祝祭日，弊社休日を除く 9:00 ~ 17:00)